

第46回ASEAN議員会議（AIPA）総会派遣参議院代表団報告書

団長 参議院議員 山本 啓介
同 同 田島麻衣子
同行 国際会議課 牧志 俊
会議要員 同 鎌野里々子

1. 始めに

第46回ASEAN議員会議（AIPA）総会は、令和7（2025）年9月17日（水）から20日（土）まで、マレーシア・クアラルンプールのワールド・トレード・センターにおいて開催された。会議には、加盟国9代表団（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ及びベトナム）、特別オブザーバー国1代表団（東ティモール）、オブザーバー国・機関の13代表団（日本、オーストラリア、アゼルバイジャン、カナダ、中国、欧州議会、ジョージア、インド、モロッコ、ノルウェー、ロシア、トルコ及びウクライナ）、AIPAゲスト国2代表団（アルジェリア及びスペイン）、主催国ゲスト1代表団（列国議会議長会議（ISC））、AIPA開発パートナー6代表団（東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）、アジア政党国際会議（ICAPP）、寛容と平和のための国際議会（IPTP）、アジア議会センター（PCAsia）、国連テロ対策事務所（UNOCT）及び国連女性機関（UN Women））及びASEAN事務局が出席した。

AIPAは、ASEAN域内の議会間組織であり、東南アジア地域の平和、安定及び繁栄のため、議会間の協力及び交流の促進を目的とし、毎年1回総会を開催している。本院は、東南アジアの各国議会人との協力関係を強化するため、1994年（第15回総会）以降、公式代表団を派遣している。

以下、本報告書では、本代表団の活動を中心に今次総会の概要を報告する。

2. 総会の概要

今次総会は、「包摂的成長及び持続可能なASEANの最前線に立つ議会」というテーマの下に開催され、ジョハリ・アブドゥル・マレーシア下院議長・AIPA議長が議長を務めた。

代表団は総会期間中、AIPA女性議員会議（WAIPA）女性政治リーダーフォーラム、開会式、第1回全体会議、AIPAと日本との対話、第2回全体会議及び閉会式に出席した。また、山本啓介団長は、開会式に先立ち、他のオブザーバー国代表団団長等と共にジョハリ議長を表敬訪問した。

（1）WAIPA女性政治リーダーフォーラム

WAIPA女性政治リーダーフォーラムは、17日（水）午後に行われ、「包摂

的なガバナンスの制度化：ジェンダーに配慮した未来対応型の議会を実現するための道筋とパートナーシップ」をテーマにした第2セッションにおいて田島麻衣子議員が発言した。

田島議員は、まず、日本は、数十年にわたる協力、平和、共有された成長の上に築かれたASEANとのパートナーシップを高く評価している旨述べた上で、今日、我々は世界の一部で根強く残るジェンダー不平等という共通の課題に直面していることを指摘した。次に、ジェンダー平等に関し、日本は特に政治的代表性において世界に後れを取っているものの、近年の進展として本年7月の参議院通常選挙において多くの女性議員が当選したこと、参議院の自身の所属会派においては半数を女性が占めていることを紹介し、この傾向は大きな前進を示すものであり、変化が可能であることを示唆していると評価した。変化は直線的ではなく、決して容易ではないが、男女が共に取り組むことによって可能となると述べ、近年ではより多くの女性、特に若い世代が立ち上がり、発言し、政治、ビジネス、科学、芸術においてより多くの役割を求めるようになったことを強調した。最後に、本フォーラムは皆が協働して主導することで変化が可能であることを示すものである旨述べた上で、各参加者に対し、ジェンダー平等が単なる政策目標でなく日々の現実となるよう、ASEAN及びアジアを築いていくことを呼び掛けた。

（2）開会式

開会式は、18日（木）午前に行われ、シティ・ロザイメリヤンティ・ハジ・アブドゥル・ラーマンAIPA事務総長が歓迎の挨拶を行い、ジョハリ議長が演説した後、アンワル・イブラヒム・マレーシア首相が演説した。

まず、ジョハリ議長は、AIPA総会は単なる形式的な会合ではなく平和、安定及び協力に対するASEANの人々の願いを実現するためのプラットフォームであると述べ、議会が地域統合の最前線に立ち、ASEAN首脳会議でのコミットメントが効果的に精査、承認され、具体的な成果をもたらす法律につながることを確実にする必要性を強調した。また、ジョハリ議長は、議会人が市民に奉仕し透明性を堅持する神聖な責務を負っていることを再確認し、その意義を維持するために民主主義が提供されなければならないと指摘した。さらに、デジタル貿易、持続可能な財政、食料安全保障及び気候行動といった分野における前進を可能にし、国内法をASEANの枠組みに調和させる上でAIPAの働きは不可欠であることを強調した。本年のASEAN議長国及びAIPA議長国としてのマレーシアの二重の役割は、議会外交をASEANの議題に整合させ、ハイレベルのコミットメントを具体的な成果につなげる貴重な機会を提供すると述べた。また、ASEAN共同体ビジョン2045の実現のため、AIPA、ASEANの組織、外部パートナーとの間のより強力な関与を呼び掛けた。最後に、参加国議会に対し、人的資本への投資、若者及び女性のエンパワーメント、若者及び女性の声を

A S E A Nの共通の未来の中心に置くことを強く求めた。

次に、アンワル首相は、今次総会のテーマである「包摂的成長及び持続可能なA S E A Nの最前線に立つ議会」は、スローガン以上のものであり、地域の経済成長が遠隔地の子どもたちを含めた全ての人の現実的な機会につながり、後の世代のために地球を守る持続可能な未来に貢献するような行動の呼び掛けであると述べた。また、アンワル首相は、議会人は人々の声としての神聖な責務を負っており、人々の身近な願望や困難を、彼らに適用される法律や政策につなげる責任があることを強調した。さらに、A S E A Nは、課題を乗り越えるため、信頼、対話及び集団的決定に依拠し続けなければならない旨述べ、議会は立法を行うだけでなく、各国が協働しなければならないグローバルな文脈に対する人々の理解を促すことから、A S E A Nの未来のためにA I P Aの貢献は不可欠であると強調した。最後に、今次総会が、率直な対話、力強い意見交換、加盟国議会とオブザーバーの連携強化のためのプラットフォームとなることへの期待を示すとともに、本年のA S E A N議長国として、A S E A Nの人々の一体性、包摂性及び共通の繁栄を推進するため、全てのパートナーと緊密に連携することへのコミットメントを改めて確認した。

その後、アンワル首相は、ジョハリ議長及びシティ・ロザイメリヤンティ事務総長と共に、総会の開会を宣言した。

（3）第1回全体会議

第1回全体会議は、18日（木）午後に行われ、各国の代表が演説を行った。

A I P A加盟国の代表は、持続可能な開発における女性及び若者の包摂の重要性、地域の平和及び繁栄におけるA I P A及び議会外交の役割、地域及び世界の不安定性及び人道状況に対する懸念、国際法やA S E A Nの原則を尊重した紛争の平和的解決の在り方、包摂的なデジタル・トランسفォーメーションの推進、A S E A N共同体ビジョン2045を通じた更なる統合の必要性、A S E A N中心性の原則に基づき外部パートナーとの協力を深化させる必要性、A S E A Nの人々の声を反映し具体的な恩恵をもたらす枠組みとしてのA I P Aの意義及び責任等について述べた。

続いて、山本団長を始め、オブザーバー国・機関の代表が演説を行った。

山本団長は、まず、海を挟んで隣り合う友人である日本とA S E A Nの友好協力関係が半世紀以上にわたる信頼の積み重ねを土台にして新たな段階に入っている旨指摘するとともに、2023年の日本A S E A N友好協力50周年特別首脳会議において打ち出した共同ビジョンに沿った協力が着実に進展していることに言及し、日本は一貫してA S E A Nとの関係を強化していくとの決意を述べた。次に、山本団長の地元である長崎が古くから東南アジア諸国と交流を続けてきたことを紹介しつつ、国と国との交流の基本になるのは、国境を越えた人ととの交流、身近な地域社会を単位とした交流であることを指摘し、日本とA S E A Nの

間で学術交流、人的交流を始めとした交流が盛んであることに言及した。とりわけ、グローバル化が進展し、地域課題が国境を越えて共通化している現代においては、地球規模の課題への対応に地域社会同士の国際的な協力が不可欠である旨強調し、長崎大学が ASEAN 各国の大学とともに国境を越えた課題に対する研究を進めている事例を紹介しつつ、日本の地域の強みが ASEAN との協力により地球規模の課題解決に向けた力になっていることをうれしく思う旨述べた。さらに、日本は ASEAN が共同体発足10周年の節目となる本年に打ち出した ASEAN 共同体ビジョン2045を全面的に支持する旨述べ、ASEAN が掲げるインド太平洋に関する ASEAN アウトルックの主流化に向けた協力に加え、この新たなビジョンに基づく ASEAN の更なる統合に向けて協力していくとともに、ASEAN 中心性、持続可能な未来に向けた包摂的な地域的枠組みの促進に向けて議会の立場から寄与していく決意を表明した。最後に、今次総会参加者との交流が今後の更なる信頼と協力につながることを期待しつつ、自分以外、自國以外の誰かのことを思い、互いに思い合う世界が広がることを願い、議会人は人々の志を貫き通せる存在であることを信じる旨述べ、発言を終えた。

（4） AIPA と日本との対話

19日（金）午後、代表団は、AIPA 加盟 9 か国の議員16名と約 1 時間にわたり、「ASEAN 中心性：持続可能な未来に向けた包摂的な地域的枠組みの促進」をテーマに意見交換を行った。

冒頭、山本団長は、ASEAN 各国を代表する議員と重要な議題について忌憚のない意見交換を行える機会を楽しみにしていたと述べた。その上で、日本と ASEAN の友好と協力の関係が半世紀以上の信頼を礎に新たな段階に入っていることに言及しつつ、日本は、ASEAN 共同体10周年の節目となる本年に打ち出された ASEAN 共同体ビジョン2045を全面的に支持しており、この機会に対話のテーマである「ASEAN 中心性：持続可能な未来に向けた包摂的な地域的枠組みの促進」について議論できることは、時宜にかなったことである旨発言した。最後に、限られた時間の中で各代表団の関心に沿って幅広く率直な意見交換を行いたい旨述べた。

続いて、AIPA 加盟各国議員から、ASEAN 地域に対する日本の支援についてそれぞれ謝意が表明されるとともに、デジタル・トランスフォーメーションの加速及び先進技術の分野における協力、アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）の取組を始めとした気候変動への対処、安全保障分野における協力、人的交流の促進等について発言があった。

これらを受けて、山本団長は、各代表団から頂いた非常に熱心な発言をしっかりと日本に持ち帰りたい旨述べた。次いで、オブザーバー国を含めた各国が、国境を越えて価値観、互いの国々に対する尊厳を共有していることを強調した。最後に、これまでの歴史を振り返るだけでなく未来に目を向け、日本の国会議員とし

て今次総会でASEAN各国から寄せられた日本に対する期待に応えるべく貢献していく決意を述べた。

田島議員は、ASEAN各国と仲間として議論できることを非常にうれしく思う旨発言した。次いで、自身の東南アジアでの経験に触れつつASEAN各国における経済及び社会の発展への敬意を表明するとともに、各代表団から言及のあった先進技術やイノベーションに係る協力及び投資の重要性を指摘した上で、日本もデジタル・トランスフォーメーション、グリーン経済等に強い関心を寄せており旨発言した。また、日本はアジアの平和及び安全保障を促進する上で役割を果たすべきと考える旨述べた。

（5）第2回全体会議

第2回全体会議は、20日（土）午後に行われ、各委員会の委員長等による報告が行われた後、報告書が採択された。次に、次回第47回総会を2026年9月20日（日）から26日（土）までフィリピン・マニラで開催することが決定された。最後に、ジョハリ議長及び加盟国9代表団の団長が共同コミュニケへの署名を行った。

（6）閉会式

閉会式は、20日（土）午後の第2回全体会議に引き続き行われ、次回総会開催国であるフィリピンのレイモンド・デモクリト・カニエテ・メンドーサ下院副議長がフィリピン下院議長に代わって受諾演説を行い、最後に、ジョハリ議長が閉会挨拶を行った。

3. その他の活動

（1）二国間会談

代表団は、総会期間中、オーストラリア、ベトナム、カナダ及びラオスの各代表団との二国間会談を行った。

オーストラリア議会代表団との会談では、姉妹都市や大学を通じた交流の促進、経済・安全保障・防衛分野における両国の協力関係等について意見交換を行った。ベトナム国会代表団との会談では、山本団長から、ベトナムとの長い交流の歴史を持つ長崎出身という視点から両国関係の更なる発展に関する発言があったほか、協力覚書に基づく参議院とベトナム国会の議会間協力に対する期待、地域の平和及び安定に向けた両国の協力等について意見交換を行った。カナダ議会代表団との会談では、両国の議会間交流の在り方、米国の関税措置への対応、エネルギーを始めとした経済分野における両国の協力関係等について意見交換を行った。ラオス国民議会代表団との会談では、田島議員から、国連職員としてラオスに在勤した経験を踏まえ、ラオスとのパートナーシップを強化すべきとの見解が述べられたほか、日ラオス外交関係樹立70周年を踏まえた議会間交流の活性

化、ラオスに対する人材育成支援及び投資の促進等について意見交換を行った。

（2）ジョハリ・アブドゥル・マレーシア下院議長との懇談

代表団は、ジョハリ議長と懇談し、山本団長から、アジア・太平洋議員フォーラム（APPF）総会のマレーシアでの開催について検討を要請したところ、同席のマレーシア下院議員から、同国における選挙を経た後の2028年以降であれば検討ができる旨の回答を得た。このほか、若い世代の育成に関する取組、被爆の実相を継承する意義等について意見交換を行った。

（3）視察

山本団長はクアラルンプール日本人墓地を訪問した。代表団はマレーシア工科大学内のマレーシア日本国際工科院及び熱帯バイオマス技術研究所を訪問したほか、在留邦人ととの懇談を行った。

4. 終わりに

本年、ASEANは共同体発足から10周年の節目の年を迎える、急速に変動する国際環境への対応も意識した共同体統合の新たな長期戦略であるASEAN共同体ビジョン2045が採択された。東ティモールのASEAN正式加盟等、成長を続けるASEANが新たな一歩を進めるとともに多様性・包摂性を体現していく中で、今次総会は開催された。日本は、ASEANとの半世紀以上の友好協力の歩みを経た信頼のパートナーとして、これまでに培った交流と協力を継続するとともに、ASEANの活力や多様性から学び、日本の強みとしていくことが重要である。

今次総会では、団長演説において、ASEAN共同体ビジョン2045への全面的な支持を始め、ASEANの更なる統合に向けた協力への決意を表明したほか、AIPAと日本の対話において、ASEAN各国の視点を踏まえ日本が協力すべき分野について忌憚のない意見交換を行った。また、WAPIA女性政治リーダーフォーラムでは、日本における政治的代表性を始めとしたジェンダー平等についての現状と展望について積極的に発信した。このほか、二国間会談において、APPFなどAIPA以外の国際会議の枠組みも視野に入れた議会外交の重要性、自由で開かれたインド太平洋の実現に向けた協力関係等について活発に意見交換を行うなど、多面的な議会外交を展開した。今後もAIPA総会へ継続的に参加し、このような取組を続けることで、議会外交の面からASEAN及び各との関係強化につながることが期待される。

最後に、今次総会議長国を務めたマレーシアの議会関係者及びAIPA関係者の御厚情並びに在マレーシア日本国大使館、視察先関係者等の多大なる御協力に対し、改めて感謝の意を表する。